

民報あばしり

NO. 978

2014/7/13

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二、四四五八
F 四三二、四四五七

藤田洋子農業委員当選



農業と農業委員会を守ります

第22回網走市農業委員選挙（定数14名）が、6月29日告示、7月6日投票で実施され、日本共産党公認で現職の藤田洋子氏（61歳）が立候補しました。同日午後5時までに定数14名に対し14名の届け出となり、無投票で全員が当選となりました。藤田洋子氏は7期目の当選となります。

日本共産党網走市委員会は、自民党が公約違反の「重要5品目」の自由化に踏み込みTPPを推進していること。さらに「攻めの農政改革」として、企業経営や大規模経営が農業の8割を担う構造改革のために、家族農業を否定し、生産調整や米政策、経営所得対策、農地対策、農協、農業委員会制度の見直しをしようとしていること。そのような情勢のもとで、農業や農業委員会制度つぶしにストップをかけて農民の声を活かす農業委員として、藤田洋子農業委員と松浦さとし農業委員（議会推薦）は、引き続き奮闘すると表明しました。

「市民の会」が署名の呼びかけ！

消費税のさらなる増税を許さない網走市民の会は、市議会へ「消費税増税に反対する意見書提出についての請願」をすることになり、請願提出にむけて署名運動に取り組みんでいます。

お知らせ

署名の前文では、4月からの消費税8%への増税で、消費が冷え込み景気が悪化し、国民の所得が伸びず、社会保障の負担増がのしかかっています。ガソリン、灯油の高騰をはじめ、生活必需品の値上げ、原材料費の値上げ等がくらしと営業を圧迫しています。それにもかかわらず、安倍内閣は国民多数の反対の声を傾けず、来年の10月から消費税を10%に引き上げようとしています。わずか1年

半で5%、10%へと2倍にもなる増税です。市議会は市民の声を国に届ける最高の機関です。多くの市民に署名を呼びかけていますので、ご協力をお願い致します。

原水爆禁止網走協議会は、7月22・23日の2日間、エコーセンターのロビーで原爆写真展を行います。多くの市民のみなさんにご来場を呼びかけています。戦争と原子爆弾の悲惨さを感じていただき、「核兵器の廃絶と二度と若者を戦争に行かせない」、平和な社会を守りましょうと「核廃絶の署名」も訴えています。

いっせ東奔西走

議員の政務活動費の支出への領収書添付が無い。め、異例の号泣会見となった兵庫県議の釈明は本当に

ひどいです。日程的にも不可能に近いのに号泣して「世の中を変えたいためにやったので、許してくれ」と言っているのには、同じ議会人として恥ずかしい限りです。それと同時に、報道の仕方も領収書が在りか無しか、日程的に不可能とかに限定される論調が目立ちます。そこは、何のためにやって、どう議会活動に活かして来たのかの本質に迫ることではないでしょうか。

私達市議団は、政務活動費を議会での一般質問を「議会たより」として全戸配布を基本に市民健康プールでの視察などに使っています。内訳などの詳細は、議会のホームページでの検索と事務局にて報告書も閲覧もできます。

菊地ひろし

5日と「北海道生活と健康を守る会連合会」の第46回大会に代議員として参加してきました。道民の命と暮らしを守る。ために52年間にわたって活動してきた最前線の組織です。

生活保護利用者の削減と・抑制をねらった「改悪生活保護法」が7月1日に施行されました。大会では「住民の中では低賃金・低年金・高い国保料（税）が払えず病院にかかれぬなど、命にかかわる事態が進んでいる。もともと住民の中に入って行き、保護を必要としている人と一緒にたたかいを強めよう」との発言に励まされて帰ってきました。

松浦 奮戦も

1日、安倍内閣は集団的自衛権の行使を容認すると解釈を変更することを閣議決定しました。その日の夜、

ノーベル賞作家の大江健三郎さんは、記者会見して、「閣議決定は許しても実際の行使までは絶対に許さない。今日は、その誓いの日だ」と抗議の声を上げました。閣議決定に大江さんは、「平和憲法と民主主義が自分の支えであり、打ちのめされたような気持ちだ」と述べました。その通りだと思えます。これから関連する法案が出てきますから、国会での徹底した議論と国民の反対運動を広げて、行使させない闘いを成功させましょう。

流水

先月末の朗読会で、シャクルートの穏やかで幸せな音色を、を聴いた。銃弾で脅かされている状況では考えられないことであり、今のこのひと時を過ごせるのは、不戦の誓いだったのだと思つた。▼日常の暮らしが安心できるように、消費税増税の反対”や”秘密保護法反対”の署名を、周りの方々に訴えている際中だった。あれほど騒がれて反対されている”集団的自衛権行使容認”……。これでもか、

これでもかと暮らしづらいことを次々と決める政府に疲れてしまふ▼人は間違いをするから、意見を出し合い納得して決めた正ししたりしていくものだ。戦後の国民の生き方の基準になるものが憲法であり、国の代表が勝手なことを見守っていくこと、私たち国民が見守っていくことの責任を与えられている。しかし、今の代表は乱暴にねじ伏せ▼現役だった時、理由なくいじめられる子がいて、涙をにじませいじめられた子に寄り添った。「この次やられたら、」バカあほ間抜け、おつちよこちよいの鼻ツたれ、お前の母さん赤でべそ”って言うんだよ。応援してるから。」と、悪口を教えた。そして、「俺の母さん赤でべそでない。」と、泣きたいいじめっ子に、「いやなことはしないからね。」と、解決できたあの頃を▼この悪口を権力者に届け、痛みこの解かる代表に代わってもらいたい。(て)